

北九州 P C B 処理事業における長期安全計画

J E S C O 北九州 P C B 処理事業所の安全な操業を確保するため、処理施設の保全、トラブル防止及び災害対策について現状を報告いたします。

今年度の安全対策実施スケジュール及び実績を別紙 1 に示します。

I 処理施設の保全

長期的に施設の健全性を確保するため、日常保全及び定期点検の結果に基づく保全を継続するとともに、点検結果や経年劣化予測に基づく長期的な設備の補修・更新を実施しています。

今年度は、1 期施設は操業終了となりましたが、解体撤去に必要となる設備及び換気空調設備の能力は必要となるため、操業中の 2 期施設と同様に定期点検のほか、安全・漏洩に関わる設備等を中心に更新等を実施します。

具体的内容を別紙 2 に示します。

1 点検及び保全

各設備の稼働状態の把握、異常の早期発見を目的とした日常点検、設備の故障やそれに伴う事故の防止、緊急停止機能の維持を目的とした定期点検を実施し、その点検結果に応じた各種保全を実施しております。

(1) 日常点検

① 傾向管理

各機器・装置の計測データ（温度、圧力等）管理

② 現場点検

目視・聴音・触手・臭覚等による状態把握

③ 簡易診断機器による点検

簡易測定機器（振動・温度・酸素濃度等）を使用した定期的な管理

(2) 定期点検

① 法定点検対象

クレーン等（労働安全衛生法）、秤量器（計量法）等

② 自主（法定）点検対象

ボイラー（労働安全衛生法）、受配電設備（電気事業法）、消火設備（消防法）等

③ 設備点検対象

受入～払出までの主要な施設（塔・槽類、ポンプ類、計装類等）及び日常点検の

結果必要と判断された設備

- ・設備検査については、2期施設が10月下旬から12月上旬に実施予定。1期施設については、改訂撤去工事のスケジュールを加味して実施予定。
- ・プラズマ溶融施設については、年2回の溶融炉補修（約1.5ヶ月間/回）と月1回程度の溶融炉内点検を実施予定。

2 長期保全

定期点検結果や経年劣化予測に基づき、長期的な設備の補修・更新を実施しております。

II トラブル防止策

トラブルの未然防止に一定の成果を上げてきたリスクアセスメント推進活動やトラブル情報の各事業所間での水平展開を確実に実施いたします。

また、事業終了期間までの安全操業を達成するための活動に加え、1期施設の解体撤去工事の安全対策に関する取り組みを実施いたします。

1 リスクアセスメント推進活動

トラブル発生につながるリスク（安全、環境衛生、防火防災）の抽出とその定量化・ランク付けを行い、当事業所及び処理施設の運転会社との連携による予防対策の徹底活動を推進します。そのための会議体として、当事業所及び処理施設の運転会社による「リスクアセスメント推進会議」を毎月1回実施し、設備改善提案及びヒヤリハット活動の進捗状況や他事業所発生トラブルの当事業所における水平展開状況を確認いたします。

2 他事業所発生トラブル水平展開

北九州PCB処理事業所以外の4事業所で発生したトラブル（インシデントを含む）の内容及び改善対策を精査し、当事業所における類似トラブルの再発防止を徹底いたします。具体的には、他事業所トラブル発生時に逐次対応するとともに、当事業所及び運転会社による水平展開について検討する「類似災害防止検討会」を四半期毎1回以上実施いたします。

平成30年度下半期から令和元年度第1四半期に他事業所で発生した1件のトラブルについての水平展開状況を別紙3に示します。

3 安全操業に向けた活動

- ① 事業終了期間までの安全操業が達成されるように当事業所及び処理施設の運転会社による「安全操業に向けた協議会」を毎月1回実施いたします。
- ② これまで実施していた漏洩防止対策に係る「漏洩防止等プロジェクトチーム会議」の対応テーマに労働災害などを加えるとともに、トラブル全般の発生防止対策を担当者間で検討する「漏洩等トラブル防止プロジェクトチーム会議」に改称し、四半期毎1回及び重大トラブル発生時に実施いたします。

4 解体撤去工事の安全対策

解体撤去工事の開始に伴い、当事業所、運転会社及び工事受注社による「解体撤去安全ミーティング」を毎月1回実施し、安全対策事項を検討しております。

Ⅲ 防災対策

消防法及び石油コンビナート等災害防止法に基づき定めた消防計画等に基づき、計画的に防災訓練を行うなど、防火・防災を徹底いたします。

国、福岡県及び北九州市の防災関連情報を逐次収集するとともに、昨年7月に発生した港湾道路の冠水などを踏まえ、7月と12月に事業所幹部による防災対策検討会議を実施いたします。

以上

令和元年度に計画する定期点検・機器更新

- 令和元年度は、定期点検のほか、安全確保・漏洩防止に関わる設備等を中心に、下表の設備の更新・老朽対策等を計画、実施

建屋別区分	計	画
1期施設	・建築土木設備老朽対策 ・換気空調・用役その他設備老朽対策	
2期施設	・VTR設備の機器・配管等の劣化対策 ・中間処理設備の機器・配管等の劣化対策 ・No.2 オンラインモニタリング装置更新 ・No.3 オンラインモニタリング装置更新 ・換気空調設備老朽対策 ・非常発電設備始動用バッテリー更新 ・窒素用・計装用空気圧縮機部品交換 ・自動倉庫老朽部品更新 ・分解炉廻り機器更新・補修 1系 水冷ダクト更新、水冷/気密ゲート更新 2系 水冷ダクト、トーチマウント更新、気密ゲート更新 ・排気処理設備機器更新・補修 1系 No.1 触媒力セット、中和剤ホース更新、No.2 触媒力セット更新 2系 No.1 NBFろ布、触媒力セット更新 ・恒温チャンバ・熱交換器耐火物更新 1系 恒温チャンバー6～7段目更新、熱交換器上部更新 2系 恒温チャンバー1段目更新、熱交換器上部更新 ・建築土木設備老朽対策 等	

注) 下線なしの設備は状態基準保全、下線ありの設備は時間基準保全

トラブルの水平展開状況（平成31年1月～令和元年6月）

No	事業所名	発生年月日	事象	件名	概 要	JESCO本社での対応	北九州事業所での対応
1	北海道	平成31年1月8日	労働災害	当初施設第2TCB（トリクロロベンゼン）除去塔塔底ポンプ吸込みバルブ開放操作中に指を切創	第2TCB除去塔上げのため、塔底ポンプの吸込みバルブをハンドル廻しを使用して両手でバルブを開ける作業を行っていたところ、ハンドル廻しがバルブから外れ、その反動で右手の薬指が近傍の別のバルブのスピンドル（回転軸）に接触し1.5cm程度切創したものの。	①本件について、北海道事業所以外の事業所に展開するとともに、各事業所での対策の検討・実施状況をフォローした。 ②リスクアセスメント推進会議に本社担当者が出席し、トラブルの詳細や発生事業所での対策を説明した。 ③全事業所が参加する社内の会議において、発生事業所から他事業所への補足説明をする機会を設け、各事業所での対策の実施状況を共有した。	①トラブル情報を共有化し、事例を事業所内各課及びKEPS安全事務局に伝達し、バルブ操作員への注意喚起を実施。 ②北九州事業所では、スピンドルの先端に保護カバーを装着するとともに、外れにくいハンドル廻しを使用し、使い方を作業員に教育して、同様の災害の発生を防止している。